

観点別学習状況の評価と評定

1 観点別学習状況の評価

全ての教科は3つの観点で学習状況の評価を行い、

「十分満足できる」状況と判断されるものを	A
「おおむね満足できる」状況と判断されるものを	B
「努力を要する」状況と判断されるものを	C

として、評価します。

評価方法は、「観察、生徒との対話、ノート、ワークシート、学習カード、作品、レポート、ペーパーテスト、質問紙、実技テスト、面接など」の中から学習の状況を的確に評価できる方法を選択します。

A・B・Cを判定する場合の区分は、次のとおりです。

A : 80～100%	B : 40～80%未満	C : 0～40%未満
-------------	--------------	-------------

2 評定

評定は、「観点別学習状況の評価」として行ったA・B・Cの組み合わせに基づいて総括し、5段階で行います。

評定は、教科の目標に照らして、その実現状況を

「十分満足できるもののうち、特に程度が高い」状況と判断されるものを	5
「十分に満足できる」状況と判断されるものを	4
「おおむね満足できる」状況と判断されるものを	3
「努力を要する」状況と判断されるものを	2
「一層努力を要する」状況と判断されるものを	1

として、評価します。

「観点別学習状況の評価」として行ったA・B・Cの組み合わせと評定は、次の表のとおりです。

<3観点>

評価	評定
AAA	5・4
AAB	4・3・5
ABB	3・4
AAC	3・4
BBB	3
ABC	3
BBC	3・2
ACC	3・2
BCC	2・3・1
CCC	1・2

*A・B・Cの組み合わせにより、2つ以上の評定がある理由について

各観点を100点、総合得点を300点として考えると、たとえば「AAA」は300点から240点までの幅があることとなります。

そのため、同じ観点別評価の組合せであっても、「十分満足できる」状況と判断されるものが「4」、「十分満足できるもののうち特に程度が高い」状況と判断されるものが「5」の両方の評定が存在します。

国語

1 はじめに

国語科は、国語による表現力と理解力とを育成するとともに、人と人との関係の中で、互いの立場や考えを尊重しながら言葉で「伝えあう力」を高めることを目標としています。これまで小学校で学んできた内容をさらに系統的・段階的につなげていきながら、反復的に繰り返し学習することで、学力の定着を図ることを基本として授業を進めていきます。「話す・聞く・書く・読む」さまざまな伝達方法を学び、言語活動を通して学級の仲間とともに伝えあう力を高めていきましょう。

2 学習のねらい

- (1) 社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする。
- (2) 社会生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を養う。
- (3) 言葉がもつ価値を認識するとともに、言語感覚を豊かにし、我が国の言語文化に関わり、国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。

3 評価の観点と主な評価資料・成績について

観点Ⅰ 知識・技能

- ・ 学年別漢字配当の漢字を文や文章で使う。
 - ・ 古典や漢文の基本知識を理解している。
 - ・ 文法を正しく理解する。
- 定期テスト、小テスト、プリント、ノート等で評価します。

観点Ⅱ 思考・判断・表現

- ・ 発表、意見交流など授業での活動
発表の原稿作りやメモの取り方、相手の発言の要点整理など「話す・聞く」の単元目標にどれぐらい近づいているかで評価します。
 - ・ 聞き取りテスト
 - ・ 作文、感想、課題作文、鑑賞文、定期テスト等
定期テスト、ノート、プリントなど提出物で評価します。
 - ・ 文脈の中で語句の意味を的確に捉え理解する。
 - ・ 小説など場面を理解し読み味わう。
 - ・ 文章から必要な情報を読み取る。
- 定期テスト、宿題テスト、プリント、ノート等で評価します。

観点Ⅲ 主体的に学習に取り組む態度

- ・ 授業に取り組む姿勢
課題に対して取り組む姿勢を評価します。課題に積極的に取り組み、他の人の意見もしっかり聞き、自分の意見も伝えよう。
- ・ ノート
定期的に提出し評価します。気付いたことや感想などメモを書き込もう。
- ・ ワーク
定期的に提出し評価します。答え合わせを必ずして提出しましょう。

4 学習の進め方

国語は、日頃からの地道な努力で力がついていく教科です。気になる言葉や分からない言葉は、積極的に辞書で調べてみましょう。また、本を読む習慣を付け、短い時間でもいいですから集中して読書をするようにしましょう。続きを読みたいと思える本にたくさん出会うことが、国語力をアップさせることには必ずです。また、教科書は繰り返し読み、ワークも何度も繰り返し行いましょう。

社会

1 はじめに

中学校の社会科では、1・2年生では地理的分野と歴史的分野を学習します。世界や日本の自然や産業の現状、昔から今までに起こった歴史的事実を学びます。3年生では、歴史的分野と公民的分野（政治・経済・国際社会）について学びます。これらを学ぶ中で、これまでの社会とこれからの社会のあり方について考えていきましょう。また、物事を科学的にとらえ、多面的・多角的にとらえる力も付けてほしいと思います。

2 学習のねらい

- (1) 我が国の国土と歴史、現代の政治、経済、国際関係等に関して理解するとともに、調査や諸資料から様々な情報を効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。
- (2) 社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連を多面的・多角的に考察したり、社会に見られる課題の解決に向けて選択・判断したりする力、思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。
- (3) 社会的事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養されるわが国の国土や歴史に対する愛情、国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。

3 評価の観点と主な評価資料・成績について

観点Ⅰ 知識・技能

- ・教科書での語句が覚えられているか、語句の意味をきちんと理解できているかについて定期テストを中心に評価します。夏休み、冬休みの宿題テストも評価に入ります。
- ・定期テストでは技能を問う問題への答えの内容で評価します。地形図上の距離から実際の距離を計算したり、方位を調べたり、等高線により海拔高度を調べたり、グラフを作成したり、略地図を書いたりするなどの内容についてです。また、それらの情報を適切にまとめるなどの技能を問う授業中のワークシートの内容でも評価します。

観点Ⅱ 思考・判断・表現

- ・定期テストでの思考・判断を問う文章問題での答えや文章表現の内容について評価します。また、授業中に実施する思考・判断を問うレポートやワークシート、グループでの話し合い活動においてもその内容で評価します。

観点Ⅲ 主体的に学習に取り組む態度

提出物、授業に対する姿勢等で評価

- ・授業に取り組む姿勢
授業に対して取り組む姿勢を評価します。手を挙げての発表、発言内容、着ベル、授業前後の挨拶、課題や議論に対して取り組む姿勢を評価します。
- ・ノート
定期テストごとに提出し、評価します。板書をノートに写すだけでなく、レイアウトを工夫したり、地図や図表を記入したり、教員の説明で大切だと思うことのメモや自習内容の追加など工夫をこらしてください。
- ・ワーク
定期テストごとに提出し、評価します。定期テストの範囲をもとに、記入して提出するページを示しているのので、答え合わせをして提出です。
- ・その他
授業中に配布する振り返りシートや白地図、ワークシートへの記入、提出状況、夏休みや冬休みの課題の提出状況も評価材料とします。

4 学習の進め方

・授業のノートをきちんととる

先生が黒板に書くことをしっかり写すこと。また、ただ写すだけでなく、整理されたノートの作成を心がけ、先生の発言をメモするなどしてください。後で見ても、学習内容がよく分かるように作成していきましょう。

・ワーク（問題集）は授業進度に合わせて進める

家庭学習で行うワークは、提出前にまとめてするのではなく、授業進度に合わせて少しずつ進めていきましょう。ワークを進める中で分からない問題があれば解説を読み、それでも分からなければ、先生に質問するようにしましょう。答え合わせもきちんとしてください。

・家庭学習をしよう

予習として教科書を読み、復習としても教科書を読み、授業内容をノートで確認して理解を深めよう。また、授業進度に合わせて、ワークも少しずつ進めよう。

数 学

1 はじめに

数学を学んでいく中で得る「知識・技能」や「思考・判断・表現」は、数学の問題だけでなく、身のまわりの課題を考えるとときにも役に立ちます。特に「ものごとをすじ道を立てて考えること」「正確に手際よく処理すること」はとても大切になります。それらを身につけるために、「すでに学んだことをもとにして、新しい課題を解決していくこと」が必要になってきます。自分から進んで考え、疑問をもち、それを解決しようとする姿勢で、数学の世界をさらにひろげていきましょう。

2 学習のねらい

- (1) 数量や図形などについての基礎的な概念や原理・法則などを理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。
- (2) 数学を活用して事象を論理的に考察する力、数量や図形などの性質を見だし統一的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う。
- (3) 数学的活動の楽しさや数学のよさを実感して粘り強く考え、数学を生活や学習に生かそうとする態度、問題解決の過程を振り返って評価・改善しようとする態度を養う。

3 評価の観点と主な評価資料・成績について

観点Ⅰ 知識・技能

- ・計算力・処理能力について、宿題テスト、定期考査、小テストなど学習の確認テストを中心に評価します。
- ・計算法則や用語の意味、公式の内容などをきちんと理解できているかについて、宿題テスト、定期考査、小テストなどを中心に評価します。

観点Ⅱ 思考・判断・表現

- ・これまで学習した知識を活用する力について、宿題テスト、定期考査などの文章問題や応用問題を中心に評価します。

観点Ⅲ 主体的に学習に取り組む態度

・授業に取り組む姿勢

課題に対して取り組む姿勢を評価します。数学科では基本的に1時間にひとつ新しいことを学習します。新しく習うことに対して間違えることを恥ずかしながら、積極的に授業に取り組みましょう。そして、互いに教え合い、学び合うことを大切にしましょう。

- ・ノート

定期的に提出し評価します。板書をノートに写すだけでなく、教師の説明や仲間の人の発言で大切だと思ったこと、自分で気付いたことをノートに書きましょう。

・ワーク

定期的に提出し評価します。計算については、途中の式を書きましょう。答え合わせをして間違った問題は直しを必ずして提出しましょう。

※観点Ⅱは応用問題が中心です。数学が苦手な人はワークの応用問題、教科書の章末問題などでパターンを覚えるのもひとつの方法です。数学が得意な人は、どんどん応用問題に挑戦して、観点Ⅱを意識して頑張りましょう。

4 学習の進め方

数学は予習よりも復習が大切です。授業中には理解できたことが、数日経つとすっかり忘れてしまう場合も多いです。そのため、毎日教科書の問題や基本の確かめ、ワークなどを用いて反復練習が必要になります。特に計算技能は、慣れるまでに時間がかかります。しかし、小学校で学習した九九と同じように、何度も繰り返して反復することで定着し、早くできるようになります。数学が苦手と思っている人は、その分復習すれば必ず成果は出てくると思います。

理 科

1 はじめに

理科の学習で本当に大切なことは、普段の生活の中で感じた「おもしろいな、不思議だな、なぜだろう」と思ったことを自分の力で解決していくことです。自ら進んで実験や観察を行い、その結果をもとに「どうしてこうなるのかな？」といろいろ考えを深めていくことが理科の学習の時間なのです。単に、結論だけを覚えるのではなく、常に疑問を持ちながら学習を進めていくことが大切です。一人一人が科学者になったつもりで、これからの理科学習にチャレンジしてください。

2 学習のねらい

- (1) 自然の事物・現象についての理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。
- (2) 観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。
- (3) 自然の事物・現象に進んで関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。

3 評価の観点と主な評価資料・成績について

観点Ⅰ 知識・技能

- ・自然の事物・現象に関する語句の意味や学習内容の知識を十分に習得できているかを評価します。
【評価方法】定期テスト（知識の習得を問う問題）、小テストなど。
- ・実験・観察の器具操作の技能や、結果のまとめ方（グラフや作図など）を評価します。
【評価方法】実験器具の操作技術（実技テスト）、実験レポートなど。

観点Ⅱ 思考・判断・表現

- ・物事を筋道立てて考える力や実験結果・グラフなどから規則性を導き出す力、レポートにまとめる力などを評価します。
【評価方法】定期テスト（思考・判断・表現を問う問題）、実験レポートなど。

観点Ⅲ 主体的に学習に取り組む態度

- ・授業に取り組む姿勢、目的意識を持って実験・観察に取り組んでいるか、自分の課題克服にどう取り組むかを評価します。
【評価方法】行動観察（授業の様子や話し合いの態度、実験・観察への取り組み姿勢など）、提出物（ノートやワーク、プリント、ファイルなど）、小テストなど。

4 学習の進め方

理科の授業では、実験・観察がとても重要です。実験・観察を行うときには、しっかり目的意識をもって積極的に参加し、レポートにまとめましょう。また、安全に気を付け、理科室でのマナーをしっかり守りましょう。

理科は予習よりも復習が大切です。授業中には理解できたことが、何日か経つと忘れてしまっている場合もあります。そのため「家庭学習の手引き」を参考に復習しましょう。

音楽

1 はじめに

音楽に触れることで、生活や社会の中の音、音楽文化について理解を深め、仲間と共有し合うなど生涯に於いて楽しむために、歌唱や器楽演奏、鑑賞などの活動を通してその方法を学びます。クラシックを中心に、さまざまなジャンルの音楽に触れ、音楽の世界を広げていきましょう。

2 学習のねらい

- (1) 曲想と音楽の構造や背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けるようにする。
- (2) 音楽表現を創意工夫することや、音楽のよさや美しさを味わって聴くことができるようにする。
- (3) 音楽活動の楽しさを体験することを通して、音楽を愛好する心情を育むとともに、音楽に対する感性を豊かにし、音楽に親しんでいく態度を養い、豊かな情操を培う。

3 評価の観点と主な評価資料・成績について

観点Ⅰ 知識・技能

- ・授業で学んだ知識や、既存の知識及び技能と関連付けたり活用したりする中で、生活の場面でも活用できる程度に概念を理解したり、技能を習得したりしているかを評価します。
評価対象は、小テスト、定期テストにおいて、事実的な知識を問う問題、実技テスト等です。

観点Ⅱ 思考・判断・表現

- ・知識や技能を活用して解決する等のために必要な思考力、判断力を身に付けているか、また、生活や社会における音楽の働き、音楽文化についての表現力等を評価します。
評価対象は、鑑賞の感想文や、作品、レポートの作成、グループでの話し合い等です。

観点Ⅲ 主体的に学習に取り組む態度

- ・授業での様子や準備物の忘れ物、提出物、自らの学習状況を把握し、学習の進め方を調整しながら、学ぼうとしているかどうかという意思的な側面を評価します。
評価対象は、授業中の態度、提出物、授業中の取組等です。

4 学習の進め方

- ・鑑賞では、ワークシートの記述や、單元ごとの小テストを行います。
- ・教材によってグループ活動で意見交流をします。

美術

1 はじめに

中学校の美術科では、小学校図画工作における学習経験と、そこで培われた豊かな感性や、表現及び鑑賞に関する資質・能力などを基に、中学校表現（発想や構想の能力・造形的な知識をふまえた技能、）の領域と鑑賞の領域を学習します。表現の学習では、絵や彫刻、デザインや工芸などの表現活動を行います。鑑賞の学習では、身近な地域や日本及び諸外国の美術作品や文化遺産などの鑑賞及び美術の働きと美術文化に関する鑑賞を行います。

2 学習のねらい

- (1) 対象や事象を捉える造形的な視点について理解するとともに、表現方法を創意工夫し、創造的に表すことができるようにする。
- (2) 造形的なよさや美しさ、表現の意図と工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生み出し豊かに発想し構想を練ったり、美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。
- (3) 美術の創造活動の喜びを味わい、美術を愛好する心情を育み、感性を豊かにし、心豊かな生活を創造していく態度を養い、豊かな情操を培う。

3 評価の観点と主な評価資料・成績について

美術科の評価には、「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「主体的に取り組む態度」の3つの観点別評価があります。

評価については、仕上がった作品はもちろんのこと、そこに至るまでのアイディアスケッチ、下絵など、制作途中の各段階における創作活動が形に表れたものをその対象とします。また、主体的に取り組む態度については、授業中の取り組みの様子等を観て評価します。鑑賞については、教科書や資料集に掲載されている歴史的な美術作品、現代の美術文化などを鑑賞し、その能力を点数化して評価します。

観点Ⅰ 知識及び技能

課題に対しての発想、構想したことをもとに材料や用具の特性を生かし、造形的な視点を持った知識をふまえて表現する技能が身に付いているか、それが作品に表現されているかを評価します。評価対象は、作品（描画、色彩、彫り、刷り等）、実技テスト等です。

観点Ⅱ 思考力、判断力、表現力等

作品から、与えられた課題に対して心豊かに構想を練る能力、そしてそれを表現しようとする能力を評価します。評価対象は、作品（アイデア、構図、レイアウト等）、実技テスト等です。鑑賞における味方や感じ方に関するものも含まれます。

観点Ⅲ 主体的に取り組む態度

作品制作における主体的に取り組む意欲、態度、普段の授業での様子や準備物の忘れ物、提出物、美術室の使い方、自分の作品や他の生徒の作品への配慮などを加味して評価します。評価対象は、授業中の作品制作の意欲、態度、準備・後片付け、提出物、定期テスト等です。

4 学習の進め方

- ・各自の活動を基本としますが、教材によってグループ学習を行うこともあります。
- ・教科書を補充するものとして副読本を使用し、教材や制作に関わり派生する知識や発想のヒントとして、また鑑賞の題材として扱います。
- ・液晶ディスプレイやタブレットを使ってより理解しやすい学習を行います。

保健体育

1 はじめに

保健体育の学習は、〔体育分野〕と〔保健分野〕に分かれています。〔体育分野〕では、専門的な運動に取り組めます。〔保健分野〕では、主に人間の体や心について学習します。

〔体育分野〕で学習する内容

A体づくり運動 B器械運動 C陸上競技 D水泳 E球技 F武道
Gダンス H体育に関する知識

〔保健分野〕で学習する内容

(1) 健康な生活と疾病の予防【全学年】 (2) 心身の機能の発達と心の健康【1年】
(3) 傷害の防止【2年】 (4) 健康と環境【3年】

2 学習のねらい

- (1) 各種運動の特性に応じた技能等及び個人生活における健康・安全について理解するとともに、基本的な技能を身に付けるようにする。
- (2) 運動や健康についての自他の課題を発見し、合理的な解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。
- (3) 運動を通して公正に取り組む、互いに協力する、自己の役割を果たす、一人一人の違いを認めようとするなどの意欲や態度を育てる。また、生涯にわたって運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、明るく豊かな生活を営む態度を養う。

3 評価の観点と主な評価資料・成績について

○知識及び技能について

- ・「運動の特性や成り立ち」「技術（技）の名称や行い方」などについて、年間3回の期末テスト、ワークシート、授業中の発言の中で評価します。【知識】
- ・実技活動を評価します。自分にチャレンジし仲間と協力し、自分だけでなくみんなも楽しめるように心がけよう。【技能】

○思考力、判断力、表現力等について

- ・授業中の安全面への配慮、友だちへのアドバイス、発言、学習カードや保健学習ノートの内容等も評価します。自己や仲間の課題の発見や解決にむけて、運動の取り組み方を工夫したり、他者に伝えたりできるようにしていこう。

○学びに向かう力、人間性等について

- ・授業態度（授業への取り組む姿勢、欠席、見学、服装、忘れ物、提出物、遅刻、準備や後片付け等も含む）を総合的に評価します。授業に公正に取り組む、仲間と協力して自己の役割を果たし、一人一人の違いを認めていけるように心がけよう。

4 授業での約束事

○規則正しい授業

- ・服装を正す…シャツはズボンに入れる。腕まくりをしない。腰パンをしないなど。
- ・挨拶、返事、受け答え…初めと終わりの挨拶は、集中した状態を作ることがとても大切です。呼名に対しては、「はい」としっかり返事をしよう。
- ・忘れ物をしない。

○安全面への留意

- ・単元の初めには、教科書にある安全面での注意事項を確認します。それらを必ず守ること。
- ・ケガのないように、集中して取り組むこと。

5 用意するもの

「中学校体育実技」、体育ファイル、筆記用具の3点を体育セットします。（保健は中学保健体育、保健学習ノート、筆記用具）

6 服装

体操服（身だしなみを整えて、心身ともにさわやかな気持ちで授業に臨む。）

7 その他

○様々なスポーツを知ろう。（TV等メディアを通してプロ選手によるスポーツを見ることや実際に競技場に行って観戦したりしてスポーツを楽しもう。）

技術

1 はじめに

中学校の技術科では、「材料と加工に関する技術」「エネルギー変換に関する技術」「生物育成に関する技術」「情報に関する技術」の4つの内容を学習します。

2 学習のねらい

- (1) 生活や社会で利用されている材料、加工、生物育成、エネルギー変換及び情報の技術についての基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付け、技術と生活や社会、環境との関りについて理解を深める。
- (2) 生活や社会の中から技術にかかわる問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、製作図等に表現し、試作等を通じて具体化し、実践を評価・改善するなど、課題を解決する力を養う。
- (3) よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、適切かつ誠実に技術を工夫し創造しようとする実践的な態度を養う。

3 評価の観点と主な評価資料・成績について

技術科の評価は、「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」の3つの観点別評価があります。

観点Ⅰ 知識及び技能

用具や道具を正しく安全に使い、課題に対しての発想、構想したことをもとに材料や用具の特性を生かし、見通しを持って技術を適切に活用する技能が身に付いているか、それが作品に反映されているかを評価します。評価対象は 作品、定期テスト等です。

観点Ⅱ 思考力、判断力、表現力等

学習したことについて、考え、工夫し、自ら課題を見付け、工夫しようとする能力を評価します。評価対象は、作品、実習、レポート、定期テスト等です。

観点Ⅲ 学びに向かう力、人間性等

授業に向かう意欲、作品製作における意欲等を評価します。評価対象は、授業中の態度、準備・後片付け、提出物、製作時の手数、定期テスト等です。

4 学習の進め方

実習活動が中心となります。

各自の活動を基本とするが、教材によってグループ学習を行うこともあります。

教科書を補充するものとして副教材やタブレットを使って、知識や技能を深め定着を図れるようにします。

家庭

1 はじめに

中学校の家庭科では生活や技術に関する実践的・体験的な活動を通して、より良い生活を工夫する能力を身に着けます。調理や裁縫などの実習もあります。

2 学習のねらい

- (1) 家族・家庭の機能について理解を深め家族・家庭、衣食住、消費や環境などについて、生活の自立に必要な基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身につけるようにする。
- (2) 家族・家庭や地域における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考慮したことを論理的に表現するなど。これからの生活を展望して課題を解決する力を養う。
- (3) 自分と家族、家庭生活と地域との関わりを考え、家族や地域の人々と協働し、よりよい生活の実現に向けて、生活を工夫し創造しようとする実践的な態度を養う。

3 評価の観点と主な評価資料・成績について

家庭科の評価は、「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」の3つの観点別評価がある。

観点Ⅰ 知識及び技能

用具や道具を正しく安全に使い、課題に対しての発想、構想したことをもとに材料や用具の特性を生かし、見通しを持って技術を適切に活用する技能が身に付いているか、それが作品に反映されているかを評価します。評価対象は 作品、定期テスト等です。

観点Ⅱ 思考力、判断力、表現力等

学習したことについて、考え、工夫し、自ら課題を見付け、工夫しようとする能力を評価します。評価対象は、作品、実習、レポート、定期テスト等です。

観点Ⅲ 学びに向かう力、人間性等

授業に向かう意欲、作品製作における意欲等を評価します。評価対象は、授業中の態度、準備・後片付け、提出物、製作時の手数、定期テスト等です。

4 学習の進め方

- ・各自の活動を基本とするが、教材によってグループ学習を行うこともあります。
- ・教科書を補充するものとして副教材やタブレットを使って、知識や技能を深め定着を図れるようにします。

英語

1 はじめに

1年生の授業では、英語という言語の特性や基礎となる単語や表現を学習していきます。小学校の復習、身近な表現、単語の調べ方などから学習します。

1年生の英語は、建物でいうと「土台」です。3年生で崩れない立派な建物になるよう、しっかりとした基礎力を付けることが大切です。失敗を恐れずに何事にもチャレンジし、英語に積極的に触れていくようにしましょう。

2 学習のねらい

- (1) 英語を通じて、言語や文化に対する理解を深める。
- (2) 英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を身に付ける。
- (3) 聞くこと、話すこと（やり取り・発表）、読むこと、書くことなどのコミュニケーション能力の基礎の力を付ける。

3 評価の観点と主な評価資料・成績について

観点Ⅰ 知識及び技能

- ・英語の語句の意味や文のきまりに関する知識を、定期テスト、小テスト（単語テストなど）などで評価します。
- ・英語を使って表現する技能を授業の様子、スピーキングテスト、英作文（提出物）等で評価します。

観点Ⅱ 思考力、判断力、表現力等

- ・様々な場面に応じて、英語を表現する能力（話す、書く）を定期テスト、授業の様子、スピーキングテスト、英作文（提出物）等で評価します。
- ・様々な場面に応じて、英語を理解する能力（聞く、読む）を定期テストのリスニング・長文読解を中心に評価します。

観点Ⅲ 学びに向かう力、人間性等

- ・授業に取り組む姿勢
授業に取り組む姿勢やコミュニケーション活動への積極的な参加を評価します。単語や文は間違いを恐れず大きな声で発音してみましょう。それが理解・定着への第一歩です。
- ・ノート
定期的に提出を求め、それを評価します。しっかりと予習・復習をして、授業に臨むことが大切です。
また自分なりの気づきをメモしてみましょう。
- ・ワーク等
定期的に提出を求め、それを評価します。

4 学習の進め方

英語は予習・復習が必要な教科です。授業で学習する前に、自分で事前に単語の意味や本文写しをノートにしておいたり、授業後にノートをまとめ直し復習したりすることで、より深い理解につながります。

また、言語の学習では、個人個人の努力がとても大切です。声に出しながら書くことは単語を覚えるときに、とても良い方法です。授業での音読を大切に、単語の読み方をしっかり覚えましょう。そして、家庭学習でも声に出しながら英語を書いたり、問題に答えたりしましょう。ひとつひとつ丁寧に努力を重ねれば、必ず力がついてきます。

英語の学習は「努力」がキーワードです！頑張りましょう。